音楽科学習指導案

大阪教育大学教員養成課程 兼平佳枝

【準備】

・柱は七＝ラを基準とし、１３絃全て大まかに平調子に調弦しておく。
・爪有り（親指のみ）
・２人で１面

１．指導内容

〔共通事項〕音色（箏の奏法「カラリン」「ピッチカート」と音色）と曲想
「指導事項」(2) 器楽　ア、イ(イ)、ウ(イ)

２．単元名　：箏の奏法と音色を意識して《さくらさくら》を弾こう

３．対象学年：小学校第５学年

４．教　材　:《さくらさくら》日本古謡

５．教材について

【音楽の背景】

桜は日本人にとって春の到来を象徴する花である。我々はつぼみが膨らみ、満開になるのを心待ちにする。しかし、その時期は短く、風や雨でハラハラと散っていき、その儚さも桜の魅力の一つとなっている。そして、子ども達にとっては入学式や卒業式を象徴する花であるともいえる。《さくらさくら》は、そもそも子ども向けの箏の手ほどき曲としてつくられたものであるが、このような日本の春の風景と共に日本人に根付いた楽曲となっている。また、箏曲は箏の絃を示す縦譜で書かれており、楽器の仕組みとかかわらせた記譜法となっている。

【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

箏は親指の奏法を基本としながら、右手と左手を駆使してさまざまな音色を奏でることができる。その中から、今回は初心者でも取り組みやすい「カラリン」「ピッチカート」を取り上げる。「カラリン」は親指で巾から一に向かって流れるように弾く奏法で、「ピッチカート」は右手の爪のついていない薬指で絃を上向きに弾く奏法である。《さくらさくら》の旋律にこれらの奏法を取り入れることで桜吹雪のイメージや、つぼみが花開いていくイメージ等、さまざまな表現の工夫をすることが可能になると考えられる。そして、ペアでイメージした桜の様子を表せるように、《さくらさくら》にこれらの奏法を取り入れて演奏できるような技能を身に付けさせたい。

６．指導計画：（全４時）

ステップ	学　習　活　動	時数
経　験	箏の奏法を使って《さくらさくら》を弾く。	1
分　析	箏の奏法と音色を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。	2
再経験	箏の奏法と音色を意識して、《さくらさくら》の表現を工夫する。	3
評　価	リレー奏で発表する。 箏の奏法と音色についてのアセスメントシートを記入する。	4

７．単元目標・評価規準

評価の観点	単元の評価規準	具体の学習場面における評価規準
知識・技能	箏の奏法と音色について理解し、イメージが伝わるように《さくらさくら》を弾く。	★①箏の奏法と音色を意識し、それらを組み合わせてイメージが伝わるように《さくらさくら》を弾いている。 ★②アセスメントシートに用語についての理解を示している。
思考・判断・表現	箏の奏法と音色を知覚し、そこから生み出される特質を感受する。 箏の奏法と音色を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。	①箏の奏法と音色を知覚・感受している。 ★②箏の奏法と音色を意識し、イメージが伝わるようにそれらの組み合わせを工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	箏の奏法と音色に関心をもち、意欲的に《さくらさくら》を弾く。	①数字譜に沿って意欲的に《さくらさくら》を弾いている。 ②箏の奏法と音色に関心をもって、意欲的に教師の演奏を聴いたり、自ら奏法を試そうとしている。 ★③箏の奏法と音色に関心をもって《さくらさくら》を弾いている。

★は単元での子ども一人ひとりの最終的な評価を行うための評価規準を示している。

８．展開

活動のねらい	子どもの活動	指導者の活動	評価
経 験	箏の奏法を使って《さくらさくら》を弾く。		
■《さくらさくら》の旋律を大まかにとらえさせる。	１．《さくらさくら》を思い出して歌う。 	●「４年生の時に《さくらさくら》を歌ったのを覚えているかな？一緒に歌ってみましょう。」と言って歌詞を掲示し、口ずさむように促す。	
■《さくらさくら》を探り弾きさせて大まかに調弦をさせる。	２．ペアで《さくらさくら》が歌えるように柱を動かす。	●七＝ラで平調子に調弦した箏を配る。 ●《さくらさくら》が生まれた背景を伝えたうえで、「今日からの学習ではお箏で《さくらさくら》を弾いてみよう」と誘う。 ●ペアで探り弾きをして楽譜をつくらせる。 ●箏の記譜法とかかわらせ	

	T：この曲はこれまで歌で勉強してきましたが、実は、この曲はもともと、お箏の初心者のために作られた練習曲なのです。ですので、今日は《さくらさくら》をお箏で弾きます。 T：歌は七から始まるので、歌に合わせて音を探しながら《さくらさくら》を弾き、歌詞の下に数字を書き込んでいきましょう。 T：お箏の音楽は、昔から絃の数字を縦に並べた楽譜を使って書かれているのです。	て、つくった数字譜を全体で共有し、確認する。	主体的に学習に取り組む態度①（観察）
■爪をつけた状態で大まかに《さくらさくら》を弾けるようにさせる。	３．ペアで交代しながら、《さくらさくら》を弾く。 	●箏の基本的な奏法は「しっかり弾き」であることを思い出させ、「しっかり弾き」を意識して演奏するように促すが、完璧を求め過ぎないようにする。 ●ペアで、自分が箏を弾かない時には、数字譜を歌うように促す。	主体的に学習に取り組む態度②（観察）
■拍に乗って《さくらさくら》を演奏できるようにさせる。	４．クラスを３～４つに分けてリレー奏で演奏する。	●子どもの状況に応じて、団扇太鼓等で拍をとる等する。	
■箏の奏法と音色に気づかせる。 	５．２つの奏法を用いた《さくらさくら》を聴いて感想を話し合い、演奏する。 T：こんな《さくらさくら》の演奏もありますよ。今までとどんな風に感じが変わるかな？ C：桜が散っていくみたい。 T：こんな様子かな？（電子黒板に桜の写真を映す） C：そうそう。 T：どこから散ったように感じたのかな？もう一度弾くので、「ここ！」と言ってください。 	●「カラリン」と「ピッチカート」を使った演奏を聴かせる。 ●子どもの発言に応じて、事前に用意しておいたさまざまな桜の写真を見せる。 ●子どもの意見を確認した後、黒板に掲示した《さくらさくら》の楽譜を見ながら、どの音の弾き方を変えていたのかを確認する。 ●「ピッチカート」「カラリン」という用語を押さえ、奏法の記譜の見方を楽譜①と共に示す。 ●教師の弾き方を真似て弾くように促し、楽譜①の《さくらさくら》を演奏させる。	

分 析	箏の奏法と音色を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。		
■箏の奏法と音色を知覚・感受させる。	６．（ア）と（イ）の演奏を比較聴取し、気づいたことや感じたことをワークシートに記入する。 T：今から、《さくらさくら》の後半部分を２種類の演奏で聴いてもらいます。それぞれ、どんな桜がイメージできるでしょう？それは音楽のどのようなところから感じたのでしょう？	●事前に録音しておいた（ア）「カラリン」「ピッチカート」を入れた《さくらさくら》と（イ）「しっかり弾き」のみの《さくらさくら》の演奏を、目をつぶらせて聴かせる。 ●手元にパーテーションを立てて教師が演奏してもよい。	思考･判断･表現①（ワークシート）
■知覚・感受した内容を共有させる。 	７．ワークシートに書いた内容について発表し合い、イメージを広げる。 C：カラリンがあると桜が風で舞い散るような感じがする。 C：私は、カラリンのところは桜が満開に咲き誇った感じがする。 C：ピッチカートのところがヒラヒラ花弁が散るような感じ。	●（ア）（イ）に対する子どもの発言を、知覚したことと感受したことの対応関係がわかるように板書する。 ●「『カラリン』と『ピッチカート』が使われていたのはどちらかな？」と問い（ア）であることを確認し、奏法で音色が変わることによって桜のイメージも変化することを確認する。	
■イメージを表現するための手がかりを得させる。	８．イメージを表すために、どこにどの奏法を使うかについてペアで話し合い、試す。 C：カラリンがあると桜が風で舞い散るような感じがする。 C：私は、カラリンのところは桜が満開に咲き誇った感じがする。 C：ピッチカートのところがヒラヒラ花弁が散るような感じ。	●板書の中からピックアップし、「では、〇〇な感じを出すためには、どの場所にこの２つの奏法を入れて弾いたらいいかな？少し試してみましょう」という問いを出してペアで演奏させる。 ●試したことを発表させ、その工夫について演奏して試してみるよう促す。	
再経験	箏の奏法と音色を意識して、《さくらさくら》の表現を工夫する。		

■表現の工夫への手がかりを基に、自分達のイメージに合った表現を工夫させる。	９．「カラリン」「ピッチカート」を入れた演奏によってイメージが変化することを意識し、自分達はどのような桜の様子を表現するかをペアワークシートに記入する。 	●２ペアで組み合わせて ４人１組になるように促す。 ●「『カラリン』や『ピッチカート』を取り入れることで、桜のイメージが変わりましたね。では、みなさんは、どんな桜をイメージして演奏したいですか？」と言って、表現したい桜のイメージをペアで考えさせ、ペアワークシートに記入させる。 ●実際に弾いて試しながら演奏していくように促す。	★主体的に学習に取り組む態度③（観察）
■工夫した表現を定着させる。	１０．イメージが伝わるように取り入れた奏法で演奏できるようにする。	●ペアごとで交代しながら作品づくりをするように促す。 ●「カラリン」「ピッチカート」以外にも工夫が見られた場合は、随時取り上げて共有していく。 ●概ね作品の方向性が決まったら、タイトルをつけ、ペアで合わせて演奏できるよう、交代で演奏するよう促す。	
■作品の交流を通してイメージを表現するための工夫に気づかせる。 	１１．中間発表をする。 T：３班が素敵なのを考えているので聴いてみませんか？イメージと工夫したことを言ってから演奏してください。 C： 散りゆく桜です。 T：じゃあ、目を閉じてイメージしながら聴きましょう。 C：だんだん弱くなっているところに散ってしまったというのを感じました。 T：なるほど、「だんだん弱く」という強弱の工夫がされていたのですね。ちゃんと伝わっていますね！拍手！では、今のも参考にしながら、自分たちの演奏を完成させていきましょう。	●工夫が顕著なペアの作品を適宜抽出し、イメージを発表させてから演奏させる。 ●抽出ペアの発表を聴く際は、イメージを思い浮かべながら聴くように促す。 ●工夫されていた表現に気づかせ、状況に応じて全員で試してみるように促す。	★思考・判断・表現②（ペアワークシート）

■表現へのヒントを得させ、意欲を喚起する。	１２．中間発表によって得たヒントを参考に、さらに自分達の表現を工夫していく。	●発表された演奏も参考にしながら、自分の作品を完成させるように伝える。	
評 価	**リレー奏で発表する。 箏の奏法と音色についてのアセスメントシートを記入する。**		
■作品の交流を通して他者の作品のよさに気づかせる。 	１３．ペアによるリレー奏で発表していく。 	●状況に応じて、団扇太鼓や箏でオスティナートを入れる。	★知識・技能①（演奏）
■箏の奏法と音色についての振り返りをさせる。	１４．アセスメントシートに記入させる。	●事前に録音しておいた２種類の《うさぎ》の演奏を聴かせる。	★知識・技能②（アセスメントシート）

楽譜①

五	五	五	七
六	四	四	七
八 七	五	五	八
六	六	六	○
五	五 P	五 P	七 P
カ ラ	五 P 四 P	五 P 四 P	七 P
一	三 P	三 P	八 P
○	○	○	○
	七	七	七
	七	八	八
	八	九	九
	○	八	八
	七 P	七	七
	七 P	八 七	八 七
	八 P	六	六
	○	○	○

実際に子どもが記入したワークシート

ワークシート

お箏の（そう法）と（音色）を意しきして《さくらさくら》をひこう

5年 1 組　番　班　名前

	どんな音から？	さくらの様子やイメージ
（ア）	弱い音が時々ある→ピッチカート 最後にトゥルルルルルレーン♪ があった（カラリン）	カラリンのときにさくらがいっせいに美しくまっているかんじ トゥルルルルルレーン♪
（イ）	ずっと強い音	咲いたばかりのさくら 花びらがきっしり

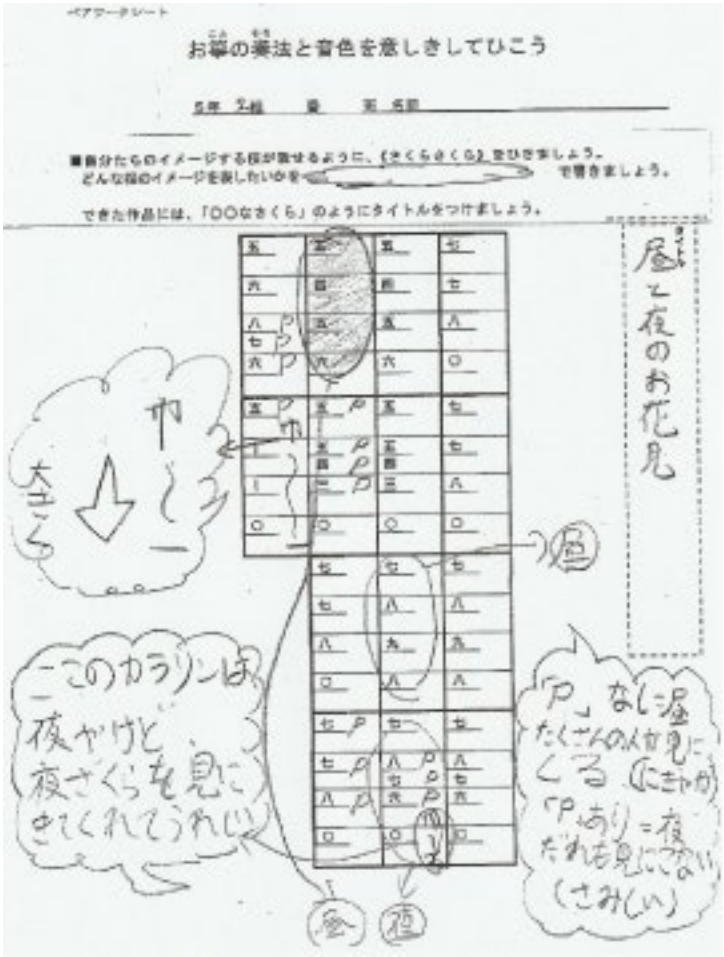
ワークシート

お箏の（そう法）と（音色）を意しきして《さくらさくら》をひこう

5年 2 組　番　班　名前

	どんな音から？	さくらの様子やイメージ
（ア）	大きな音から小さな音になるところや カラリンから。→ピッチカート しっかりびき	大きな音はおぜいの人が花見をしにきていて、 小さな音は夜（お）になってだれもいなくなりさみしいようす。 最後カラリンはおおぜいの人にパフォーマンスをするように花がまっているようす。→花ふぶき
（イ）	一定の強い音から。 →しっかりびき	ヒヒハヒヒハのはじめでつぼみが花になり はじめて花がさきとちゅうからどんどん まん開になっていき 最後はまん開!!

実際に子どもが記入したペアワークシート



実際に子どもが記入したアセスメントシート

アセスメントシート

お<ruby>箏<rt>こと</rt></ruby>の<ruby>奏<rt>そう</rt></ruby>法と音色を意しきしてひこう

5年 2組　番　班　名前

■今から2種類の《うさぎ》をききます。

それぞれの《うさぎ》には、「カラリン」「ピッチカート」のどちらのそう法が使われていましたか。使われていたそう法に○をつけましょう。

また、それぞれどんな感じがするかを書きましょう。

①の《うさぎ》	②の《うさぎ》
㋐ カラリン イ. ピッチカート	ア. カラリン ㋑ ピッチカート
感じたこと カラリンを使って元気にうさぎがはねていると思った またさいごのカラリンはうさぎがくるりと回っているのではと思った	感じたこと ピッチカートでかれいできれいにとぶうさぎがたくさんそうぞうできた またおどっているうさぎもそうぞうでき

アセスメントシート

お<ruby>箏<rt>こと</rt></ruby>の<ruby>奏<rt>そう</rt></ruby>法と音色を意しきしてひこう

5年 3組　番　班　名前

■今から2種類の《うさぎ》をききます。

それぞれの《うさぎ》には、「カラリン」「ピッチカート」のどちらのそう法が使われていましたか。使われていたそう法に○をつけましょう。

また、それぞれどんな感じがするかを書きましょう。

①の《うさぎ》	②の《うさぎ》
㋐ カラリン イ. ピッチカート	ア. カラリン ㋑ ピッチカート
感じたこと 最後のカラリンで、うさぎが今までで、一番高くXとぶようすをイメージしました。	感じたこと たくさんのうさぎが何回もとぶようすをイメージしました。 ⇓ みんなで楽しんでいる。